

市政に対する一般質問

〽〽9名の議員が質問〽〽

6月定例会の一般質問は、6月19日・20日の2日間にわたり行われました。質問の要旨は次のとおりです。

- 菊地 忠久** 白石市の財政状況について
- 管野 恭子** 食品ロス削減について
- 佐藤 龍彦** 就学援助制度の拡充について
- 保科善一郎** 本市の産業基盤の整備について
- 沼倉 啓介** 障害者差別解消法への取り組みについて
- 佐藤 秀行** 弥治郎こけし村リノベーション事業について
- 松野 久郎** 公民館単位のまちづくりについて
- 四竈 英夫** 企業誘致について
- 伊藤 勝美** ため池の防災・減災対策について

他 他 他 他 他 他 他 他 他

白石市の財政状況について

菊地 忠久



なり得る。

財政状況についての所見を伺う。

〔質問〕財源不足により、本年度当初予算で市の貯金である財政調整基金から13億6千万円を一般会計に繰り入れた。現在の主要3基金の残高を伺う。

〔答弁〕〔財政課長〕平成29年6月補正前の時点で、財政調整基金が11億5千373万6千円、減債基金が3億5千987万8千円、都市整備基金が14億5千46万9千円である。

〔質問〕財政調整基金の残高が約11億5千万円なので、仮に来年度の予算編成を今年度と同規模で財政調整基金から13億6千万円の繰り入れを行おうとすると、財源不足から予算編成ができない状況に

なり得る。

財政状況についての所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕主要3基金の残高は年々減少しており、財政状況は非常に厳しい。来年度予算編成にあたり、今年度当初予算と同規模程度と仮定した場合、財源不足により予算編成ができないという非常に厳しい状況にあることも認識している。

普通交付税が年々減少傾向にあることなど、歳入において前年度より増額が見込めないことから、歳入に應じた歳出にするとという大前提を踏まえた財政運営が必要と考えている。

〔質問〕どのように来年度の予算編成を行おうと考えているか伺う。

〔答弁〕〔市長〕事業の選択と集中を図りながら、歳出全般にわたる

徹底した見直しを行う。

目先のことだけではなく、将来的なビジョンを描きながら予算の編成をしていきたい。

〔質問〕補助金交付事業について、ゼロベースで根本的に見直す必要があると考えますが、所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕補助金ありきの事業になっていないか、しっかりと見ているし、担当部課長にも指示をした。

各団体の会計において、ほとんど繰り越しとなっていたり、総事業費の中で補助金の占める割合が非常に多く、補助金なしではそもそも活動ができないというものについては、それぞれの関係者と話をしながら事業の縮小や見直しをしていく必要があると考える。

〔その他の質問〕
◎総合型地域スポーツクラブについて